社会福祉法人
大念仏寺
社会事業団
★ボ・ドーム大念仏
★いちょう保育園
★大念仏乳児院
★いちょうベビーセンター
★ひらのドリーム園

季刊誌　つぼみ
第13号

第13号
平成24年（2012）1月1日
発行所　社会福祉法人
大念仏寺社会事業団
発行人　理事長　杉田善久
編集協力
藤森雄介　淑徳大学
国際コミュニケーション学部
渡邉義昭　淑徳大学　総合福祉学部

花ばたけ

「変わらぬ思いで」

大念仏乳児院
副施設長
家庭支援相談員
吉岡　和代

昭和四十四年、当時の大念仏乳児預り所（定員九名）に保育士として採用され、様々な事情により家庭で養育出来ない子どもたちの育児に携わる事になりました。

これまで多くの子どもたちや保護者の方々との出会いの中、家庭復帰を目標に、子どもたちが健やかに成長することを願いつつ、授乳や食事介助等の経験を重ねながら絆を深め、親子の愛着関係を構築出来る様サポートしてきました。難しい場合は、市内の児童養護施設での慣らし保育を行ない、無理のない移動を心掛けています。中には養子にとの申し出もあり、今日まで百名余の里親さんの引き取りがありましたが、何年か後成長した姿でご家族と来訪して頂いた際には、思わぬ出来事に胸が熱くなり、明日への大きな活力となります。

月日の流れと共に施設の内容も変化し、昭和四十二年十二月より定員二十名となり名称も乳児院と変わり、職員数も増え、勤務形態も二交代から三交代、夜勤者も一名から二名と形態を整え、職員の連携と家庭的な保育を進めてきました。

又平成十七年に新たに建物が改築され、定員も二十五名と増えました。それに伴い、心理士等の専門職も配置され、社会の様々な状況の変化に対応し、地域の社会資源としての役割を担う開かれた施設で在る様心掛けたいと思います。

いつの時代でも養育に向き合う立場姿勢は変わらず、三つ子の魂百までと先人からの教えにもあります様に、子どもからの発信をしっかり受け止め、笑顔で呼応し、保護者や担当者の思いを共有しながら子どもの個性を育む環境が大切であると感じます。

これまでの多くの方々との出会いに感謝し、お預かりした命を守り育て、一人でも多く家庭に戻れる様に務めてまいります。これからも子どもたちの輝く笑顔に元気をもらい、一日一日を大切に歩んでゆきたいと思います。

大念仏乳児院

チューリップホーム★

ハッピー★ハロウィン

より家庭に近い環境での保育を目標に小規模グループケアを実施しています。この日は、ハロウィンにちなんで可愛く大変身！衣装もおやつも子どもたちの手作りです。お菓子をくれないと、いたずらしちゃうぞ！

待ちに待った一泊保育

一か月遅れて、待ちに待った一泊保育に行き先は、パンダさんのいる白浜アドベンチャーワールドです。でも子どもたちに一番人気があったのは：白クマさんでした。気持ち良さそうに水の中を泳ぐ姿に、みんな目が釘付けです！

七五三の記念撮影

七五三の記念撮影に行ってきました。七五三とは、子どもが無事成長した事と今後の幸福、健康で長生きできる事をお祈りする行事です。かわいい袴を着て満面の笑み。これからも元気いっぱい大きくなってね。

たまねぎに挑戦

一泊保育が中止になり、お食事会の準備をすることになりました。玉ねぎの皮むきは、目が痛くて大変だったけれど、苦戦しながらもみんな果敢に挑戦しました。他にも、クッキーやゼリー等を作って、デザートバイキングをしました。

ドレミ

本年度6月より始めた『みんなで作る！ドレミ大作戦！』「みんなでハッスル！ドレミ運動会！」と題してミニミニ運動会を行ないました。まずは、運動会で使う入場門の飾りつけの制作を親子で行って頂き、とても可愛い入場門が完成しました。当日は笑顔で楽しんでいるお友だちや、突然泣き出してしまうお友だち、必死で頑張っているお母さんなど色々な姿を見せてくれ素晴らしいミニ運動会となりました。これからも皆さんの笑顔を見られるよう知恵をふり絞っていきたいと思っております。

～　もくじ　～
1面　花ばたけ・大念仏乳児院・ドレミ広場
2面　いちょうベビーセンター・ひらのドリーム園
3面　ボ・ドーム大念仏・いちょう保育園
4面　ご寄附・ご寄贈者・事業団
つぼみ通信　（池田弘志さん）
編集委員会手帳

ご寄附・ご寄贈者

みなさまのご厚情心より御礼申し上げます
平成23年９月から平成23年11月まで

大念仏寺社会事業団
宝塚-ラベル　柿
ボ･ドーム大念仏/乳児院
モリカワ養鶏場　卵
大阪葉業青年クラブ　各種お菓子
熊本県経済農業協同組合連合会　なすび･トマト
松本春照　りんご･みかん･バナナ

ボ･ドーム大念仏
蔵之内マリア　子ども服
乳児院
大阪市JA女性会　マザーズハンド　金55,502円･お菓子

順不同、敬称を略させていただきました

御礼

先日はお忙しい中、創設者杉田養昌先生の三十三回忌法要にご臨席賜り、誠にありがとうございました。

大念仏寺社会事業団創設の地において、関係様方のご支援のお陰で、無事法要を営む事ができました事に厚く感謝申し上げます。かえりみますと、七階教養室の御本尊菩薩壁画は、設立当時、御仏の御加護、御慈悲を仰ぎ、福祉事業発展に身骨を注ぎ、取り組んだ姿が偲ばれます。五十六年前、補助も何も無いところから、古材、トタン板等を工面し、時には私財を投げ出し、古建物改修と、戦災、母子施設を開設し、現在の社会事業団の礎を築き上げられた努力と精進にはただただ頭の下がる想いがいたします。当日は、総本山大念佛寺より吉村晧英総長が、創設者の功績をたたえ、表白文と導師を勤めていただきました。法要の後は、御遺族を招いて食事会を行ない職員となつかしい思い出話に、ひと時を過ごしました。恵まれた現在の環境の中で、私たちは無尽蔵の努力を惜しむことなく、この事業に携わることが創設者の意向に添えるものと固く信じています。

今後とも、尚一層のご支援・協力賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

平成二十四年一月一日
社会福祉法人　大念仏寺社会事業団
理事長　杉田善久

伝教大師「亡己利他」の話をされる大念佛寺総長吉村晧英師

遺族・職員関係者による法要
7階教養室

御遺族を招いての食事会

表白文を読まれる
導師の吉村晧英師

AEDが設置されました

救命講習会

平成23年9月22日杉田理事長・職員37名が講習会を受けました。

今年も救命講習会を行いました。熱心にご指導いただき、取り組む事の大切さを実感しました。

つぼみ通信

生命を守る！

今回は、雨の日も風の日も又、夏の暑い日や雪が降る寒い日も通用門に立ち子ども達の登降時には安全を第一に考え守って下さっている警備の池田弘志さんを御紹介させて頂きます。池田さんは、昭和十三年生まれの島根県出身で、以前は印刷用の版画を作る製版のお仕事をされていました。主としてのお仕事を終えられ、いちょう保育園・いちょうベビーセンターには5年前より来て下さっています。

“池田のおじちゃん”と子ども達から親しまれ、いつもおじちゃんの周りには子ども達がいっぱいです。家に戻られても男の子3人、女の子4人計7人のお孫さんを持つおじいちゃんです。昔はお母さんやあんちゃんもされたそうですが、今は休みの日には、のんびりとお孫さんと趣味の釣りを楽しまれていると目を細めて話して下さいました。和歌山や伊勢などの遠出もありますが、南港あたりでもあじ・さば・いわしったちうおなどが釣れるそうです。

この5年間お休みしたのは1日だけとお聞きしました。健康の秘訣は何ですかと尋ねたところ、冬場はカイロも入れず体操などをして体を動かして温めています。夏の暑い日も熱〜いお茶を飲んだりするくらい…かな。帰った後のビールはやめられませんが…と優しく微笑んでいらしゃいました。又自分が休んだ時に、事故が起きたら…と考えると体が自然に動きます。と話して下さる目に心の底から子どもの安全を守る責任の重さを感じました。

これからますます寒くなりますが、身体に気をつけられ子ども達をお守り下さい。

お知らせ

各施設にご意見箱（きっくん）を設置しています。ぜひご活用下さい。

【お問い合わせ先】
社会福祉法人
大念仏寺社会事業団
広報編集委員会
〒547-0045
大阪市平野区平野上町1丁目7番3号
TEL　(06)6791－5410
FAX　(06)6791－7774
URL http://www.dsw.or.jp/

編集委員会手帳

何事も期限が押し迫らないとできない私。毎回、計画を立てて目自に取りかかろうと思うのですが、「明日からがんばればいいや！」と思い、なかなかできず…。

いつも「つぼみ」の文面を考える時に、今までの「つぼみ」を読み返しているのですが、数ケ月前に発刊した「つぼみ」を見ては、「あぁ、こんなんだったんだぁ。」と思ったり、もっと前の「つぼみ」を見ては、「うわ〜○○ちゃん、こんなに小さい！」となつかしく思ったりして、今回もなかなか進まず、ぎりぎりになって慌てて考える事になってしまいました。今年からは何事も計画的に取りかかるようにがんばるぞ〜！

ひらのドリーム園　―